

ECO ツーリズム



89号
2021. Spring
Vol.23 No.3

巻頭インタビュー
ヨーロッパに残された
豊かな自然と深い歴史を活かして
ルーマニア・エコツーリズム協会

エコツーリズムサイト
岐阜県高山市
乗鞍山麓五色ヶ原の森

エコツーリズムの現場から
下呂温泉における
エコツアーの効果に関する調査

特集
JES2020年度
活動報告

エコツーリズムサイト便利
クリッピング海外情報
事務局通信



事務局通信

編集後記

いかに「新型」コロナウイルスが変異を続けようと、私たちがとるべき行動は一年前に提示されたものからほとんど変わっていない。感染拡大が収まらないのは、移動を我慢が、古来旅を続けてきた我々にとって旅とは生きることに同義である。観光産業が壊滅的な打撃を受けている現状はとも苦しいが、これまでの観光のあり方が転換点を迎えていることは事実であり、受け入れなければならぬだろう。今号の企画意図はその確認にある。リスクを前提としたこれからの観光は、既定路線の延長にはないはずだ。訪問先地域の意向を確認することから始めるという時点で、旅人の意識は変容しており、やっと主役になれたと安堵している地域も少なくない。地域が守り伝えたい自然や文化と出会う旅がエコツーリズムである。JESはWithコロナの新しい旅の水先案内人となるだろうか。(海津ゆりえ JES 運営役員)

法人会員紹介

株式会社
JTB コミュニケーションデザイン

MICE やプロモーション、施設運営等の「コミュニケーション事業」を展開。地域活性支援等も通じ持続可能社会の実現を目指します。

Jtb
Communication
Design

株式会社
近畿日本ツーリスト首都圏

SDGsが浸透するなかエコツーリズムへの関心が高まっています。自然を大切に楽しむ旅をお届けします。

Knt 近畿日本
ツーリスト

公益社団法人日本観光振興協会

観光振興に関する中枢機関として、観光立国の実現、地域経済・観光産業の発展、国際親善を推進しています。

公益社団法人日本観光振興協会
JAPAN TRAVEL AND TOURISM ASSOCIATION

福島県北塩原村

村内のほとんどが磐梯朝日国立公園内に位置し、「裏磐梯」と呼ばれる地域には「五色沼湖沼群」や「松原湖」などの景勝地があります。

会議等実施・派遣報告

(2021年4月～6月)

4/7 一般社団法人HAKUBAVALLEY TOURISM (広域DMO) 講師派遣

4/21 乗鞍岳エコツーリズム検討部会出席

4/22 明海大学ホスピタリティ・ツーリズム学部 講師派遣

4/29 田川博己会長、旭日中級章受章

5/25 JES拡大理事会

6/11 第13回全国エコツーリズム学生シンポジウム 第1回実行委員会

6/25 JES総会

6/24～7/2 環境省エコツーリズム人材育成事業 インバウンド研修開催(オンライン)

JES行事予定

(2021年7月～)

7月 第13回全国エコツーリズム学生シンポジウム 発表者募集開始

9月上旬 環境省エコツーリズム人材育成事業 参加者募集開始

■法人会員 企業・団体名:
NPO法人赤目四十八滝渓谷保勝会 / 奄美群島エコツーリズム推進協議会 / 岩手県二戸市 / 合資会社浦内川観光 / 一般社団法人エコロジック / 愛媛県 / 愛媛ダイビングセンター / NPO 法人奥入瀬自然観光資源研究会 / 一般社団法人小笠原村観光協会 / NPO 法人おきなわ環境クラブ / 沖縄県環境部自然保護課 / 株式会社風の旅行社 / 上市町観光協会 / 環白神エコツーリズム推進協議会 / 一般財団法人 休暇村協会 / 株式会社 近畿日本ツーリスト首都圏 / グリーンぴーす株式会社 / 下呂市エコツーリズム推進協議会 / 一般社団法人 元気インターナショナル / 小岩井農牧株式会社 / 株式会社コスモスインシア / 株式会社 五千尺 / サービス・ツーリズム産業労働組合連合会 / 株式会社ジェーシービー / 株式会社 JCB トラベル / 一般財団法人 法人自然公園財団 / NPO 法人 自然体験学校 / 株式会社 JTB / 株式会社 JTB ガイアレック / JTB 協定旅館ホテル連盟 / JTB グループ労働組合連合会 / 株式会社 JTB コミュニケーションデザイン / 株式会社 JTB メディアリテリング / 一般社団法人 全国旅行業協会 / 全日本空輸株式会社 / 大江山麓・日野川流域観光推進協議会 / 株式会社 高田松原 / 谷川岳エコツーリズム推進協議会 / 株式会社 知多半島ナビ / 東京都 / 東京都小笠原村 / 公益財団法人 東京観光財団 / 東武トップツアーズ株式会社 / 鳥取県大山町 / 富山県上市町 / 公益財団法人 名古屋市民休暇村管理公社 / 二尊院 宿坊えんとき / 公益社団法人 日本観光振興協会 / 日本航空株式会社 / 公益財団法人 日本交通公社 / 公益財団法人 日本修学旅行協会 / 公益社団法人 日本ナショナル・トラスト協会 / NPO 法人 日本ヘルスツーリズム振興機構 / 株式会社 日本旅行 / 一般社団法人 日本旅行業協会 / 濃飛乗合自動車株式会社 / 株式会社 博報堂 / 東北リゾートサービス株式会社 / ハワイ州観光局 / 東近江市エコツーリズム推進協議会 / 東日本旅客鉄道株式会社 / NPO 法人 飛騨小坂 200 滝 / 株式会社 ビッキオ / 株式会社 フィールド & マウンテン / 福島県北塩原村 / 富士急行株式会社 / ヘルトラ株式会社 / 北海道弟子屈町 / マカオ政府観光局 / Mt.6 / 一般社団法人 松本観光コンベンション協会 / 株式会社 未来政策研究所 / 宮崎県串間市 / 特定非営利活動法人 森のこだま / 株式会社 モンベル / YaH 株式会社 / 公益財団法人 屋久島環境文化財団 / 株式会社 八ヶ岳登山企画 / やったろう de 高島 / 特定非営利活動法人 湯来観光地域づくり公社 / 一般財団法人 ロングステイ財団 (2021年5月末現在)

ECO ツーリズム Vol.23 No.3 通巻 89 号 Spring 2021

発行 一般社団法人日本エコツーリズム協会 Japan Ecotourism Society (JES)
〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-24-9 アイケビル3階
TEL. 03-5437-3080 FAX. 03-5437-3081 Email. ecojapan@alles.or.jp Web. https://ecotourism.gr.jp/

発行日 2021年6月30日
発行人 田川博己(会長)
編集長 海津ゆりえ(運営役員)
企画・編集 高梨洋一郎(副会長) / 高野千鶴(事務局) / 赤間亜希(事務局)
デザイン 株式会社アートポスト

日本の本州とほぼ同じ面積に人口約2,000万人が暮らす東欧の国「ルーマニア」。
国土の中央をカルパティア山脈が弧状に延び、欧州最大の湿地帯「ドナウ・デルタ」は世界自然遺産に登録されている。
森林、鍾乳洞など豊かな自然資源を有し、大型の野生動物が生息するルーマニアは2000年代初頭からエコツーリズムに取り組んできた国だ。
その少し前、1989年にルーマニアは社会主義共和国から現在のルーマニアへと変貌をとげている。
ルーマニア・エコツーリズム協会設立以前からエコツーリズム事業に関わり、専門家として協会で活動を続けてきた、
アンドレイ・ブルマー代表にルーマニアのエコツーリズムや協会の取り組みなどについて話を伺った。



野生のクマの観察 ©BTI_1. Observare de urși în natură 1

ルーマニア・ エコツーリズム協会

ヨーロッパに残された
豊かな自然と深い歴史を活かして



アンドレイ・ブルマー
Association of Ecotourism in Romania (AER)
ルーマニア・エコツーリズム協会代表

収録日：2021年5月17日
収録場所：Webインタビュー
インタビュアー：赤間亜希
(日本エコツーリズム協会事務局)

野生動物保全の
国際プロジェクト担当
からエコツーリズム協会の
設立者へ

ルーマニアでエコツーリズムに携わるようになったきっかけはなんですか？

欧州に生息する大型野生動物のクマ、オオカミ、オオヤマネコなどの約40%がルーマニアにいていわれています。1993年から2003年に、これらの野生動物の保全プロジェクトがルーマニアで実施されました。プロジェクトは「カルパティア大型肉食動物保全事業（CLICP）」とよばれ、当時、WWF（世界自然保護基金）やドイツ、オーストリア、イタリアなどから支援を得て実施した欧州でも大きなプロジェクトのひとつでした。野生動物の生息調査が主でしたが、プロジェクトの一環として1999年にエコツーリズム推進事業が始まり、当時私は国立公園の職員として携わっていました。本プロジェクトの終了を前に、プロジェクト終了後も継続的に野生動物の保護・保全と観光の両立を図るために、CLICPプロジェクト関係者、ツアーオペレーター、宿泊施設などエコツーリズムを推進する国内の関係者が集まりイニシアチブグループが立ち上がりました。そして、この保全プロジェクトが終了した2003年に、WWFを共同設立者に入れ、イニシアチブグループを「エコツーリズム協会」として登録したのです。それ以来、私は協会設立メンバーの一人



カヌー ©PC_Moiceanu

として、同協会の代表として、また職員として活動を続けています。

観光を通じて自然保護区と周辺地域をひとつにする「エコツーリズム・DESTINEーション」という考え方

貴協会の主な活動について教えてくださいませんか？

現在、協会では事務所長と私を含めた常勤職員3名が働いていて、エコツーリズムを推進するプロジェクトをそれぞれが担当しています。プロジェクトごとに専門家や人を雇うこともあります。協会の会員数は81件で、観光事業者が半分、残りはコンサルタントや研究者などの個人です。私たちは、国立公園な



馬そり © Mircea Bezergeanu_BTI_5 Mircea Bezergeanu

どの自然保護区で観光ビジネスを展開し保全に貢献することをミッションにしていて、これは協会が目指すゴールのひとつでもあります。協会の活動は主に2つで、会員となつてくる観光事業者を支援するプロジェクトとエコツーリズムのコンサルタント事業です。まず会員のプロジェクト事業ですが、観光事業者を営む会員の多くは小規模事業者なので「Discover Eco-Romania」プロジェクトのもと協会のHPを通じて彼らの情報を発信しています。

ビジネスツアー催行のために「Eco Romania」という協会独自のエコツーリズム認証制度を開発しました。対象は1泊以上の宿泊を伴う15人以下の「ツアー」と、農村や自然地域にある25部屋以下の「宿泊施設」です。現在、7つのツアーと33箇所の宿泊施設がこの認証を取得しています。当時、認証の導入がツアーのプロモーションにつながると考えたのですが、認証事業に取り組んでから数年後、認証を取得した事業者や宿泊施設のビジネスが思ったほど伸びていないことに気づきました。また、エコツーリズムやサステナビリティのコンセプトを国内に印象付けることに難しさを感じていた時に、自然保護区の周辺地域を巻き込んだエコツーリズム・DESTINEーション（観光地）というコンセプトに注目し、これに取り組むようになりました。

エコツーリズムのDESTINEーションについて貴協会はどのように関わっているんですか？

ルーマニアでは国が地域に対してエコツーリズムのDESTINEーションを認証する仕組みがあるので、これを活用して自然保護区だけでなくその周辺地域を含めたエリアをエコツーリズムのDESTINEーションとして仕組む取り組みを行っています。2009年、エコツーリズム・DESTINEーションというコンセプトが国の観光戦略に初めて組み込まれ、認証制度として承認されたの

は2019年でした。その間、私たちは観光省、環境省など国の機関と連携し、認証の基準づくりに協力しました。DESTINEーションを対象とした国の認証基準には「ヨーロッパエコツーリズム認証基準（ETLS）」の指標を活用しています。これはヨーロッパ・エコツーリズム・ネットワーク（EEN）が欧州の国際プロジェクトを通じて開発した指標で、グローバルサステナブルツーリズム協議会（GSTC）の基準に準拠しており、これまで国内で5地域が認証を取得しています。

私たちのHPでは10地域のエコツーリズムのDESTINEーションを紹介していますが、そのうち7地域で事業を展開しています。この事業のもと、各地域に2名のコーディネーターを雇い、現地のDMO（注1）と連携させエコツーリズム・DESTINEーションとしての仕組みづくりを支援しています。例えば、地域の推進体制やネットワークづくり、資金調達からネイチャートレイルやマウンテンバイクのトレイル開発、ネイチャーインタープリテーションセンター研修やビクターマネジメントなどソフト面のインフラ整備まで、各地域のニーズや要望にあわせて協力しています。また、これらの地域がエコツーリズム・DESTINEーションの認証を取得するためのサポートをしていて、現在3地域が申請の準備をしています。

エコツーリズムのDESTINEーションづくりには資金の確保という大きな課題があります。国からの予算はないので、欧州の国際協力ポ

ジェクト資金やパートナーシップを結んでいるスポンサー団体のファンドを活用することもありますが、今後もエコツーリズムを軸とした観光地域づくりに取り組む地域を支援していきたいと考えています。

ルーマニアの エコツーリズム体験

最後に、貴協会のHPでプロモーションしている10地域の中でおすすめはありますか？

地域ごとにそれぞれの特徴があります。何を体験したいかにより異なりますが、例えば、クマなどの野生動物観察や雄大な自然の景色を楽しむながらハイキングやトレッキングをしたい人はピアトラ・クライウレイ山地の麓にあるザルネシュティや温



自然保護区内のサインを使った解説 ©TD_foto AMO RIDERS
(写真協力：ルーマニア・エコツーリズム協会)

貴重なお話ありがとうございます。



Webサイト
Discover Eco-Romania

アンドレイ・ブルマー
ルーマニア・エコツーリズム協会の代表をしながら、エコツーリズムを通じたアウトドア・アクティビティ、自然保護区やコミュニティ開発を専門とするコンサルタントとして活躍。欧州、ポツァナのエコツーリズム認証制度の開発や USAID（米国国際開発庁）、UNWTO（国連世界観光機関）、WWF（世界自然保護基金）などの国際機関のプロジェクトに携わる。フォトグラファー、ガイドとしてもルーマニアの魅力を発信している。

注1：DMOとは、観光物件、自然、食、芸術・芸能、風習、風俗など当該地域にある観光資源に精通し、地域と協同して観光地域作りを行う法人のこと。Destination Management Organization（DESTINEーション・マネージメント・オーガニゼーション）の頭文字の略。（出典：JTB総合研究所）

2020年度 活動報告

2020年4月1日～2021年3月31日

2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大により当会の事業においても、人材育成研修や学生シンポジウムのオンライン化、WEBセミナーの開催、実開催とオンラインのハイブリッド化など、状況に応じた形で実施してきました。オンライン化によって遠方の人が参加しやすくなり、情報の交換がしやすくなったという利点がある一方で、研修等の講師陣からは参加者の反応が分かりづらいのやりにくい、参加者側からは音が聞き取りづらい等の意見も挙げられています。幸いにも実開催できた事業においては手指消毒や検温、マスク着用、換気等を徹底し、無事に終えることができました。

2021年度も引き続き、ミテココロナの中で、オンライン化によって得られた利点を最大限に活かしながら、様々な分野のパートナーとエコツアーリズムの推進に取り組んでいきます。

人づくり (人材養成事業)

環境省

自然資源を活かすエコツアーリズム・インタープリテーションの人材育成支援

環境省では、国立公園をはじめとした自然地域における人材の育成を支援する事業を2017年度から実施しています。この事業ではビジターセンター等の拠点施設のスタッフの育成を対象としたAコースと、エコツアーガイドや地域コーディネーターを育成するBコースの2つが設定されており、研修会やアドバイザー派遣等を通して、それぞれの地域や施設における取組の計画策定とアドバイスをしています。

オンラインによる研修会の開催

当会担当のBコースでは、地域における持続可能な仕組みづくりを実現するため、エコツアーリズム推進団体の設立や、事業化のためのマーケティングやコンテンツ作成、販売等に対する幅広い支援を行っています。今回は初めて研修のすべてがオンラインで開催され、動画教材とライブ講義、カウンセリングセッションなどを複数回実施し、きめ細やかなサポートが可能となり

ました。(一部の講義動画は環境省のHP「エコツアーリズムのススメ」にて一般公開) Bコースでは、地域におけるガイドとエコツアー事業者、コーディネーターの役割とエコツアーのプログラム作りの基本的な考え方、事業運営のためのマーケティングやリスクマネジメント、販売促進等に関する講義を行いました。研修中、各チームは地域のビジョンや研修後に行う取組の計画を作成しますが、3日目は、その計画について講師のカウンセリングを受けながら

ブラッシュアップを図り、最後に発表を行いました。

研修後のアドバイザー派遣

研修後のアドバイザー派遣では、各地域に対して収益向上のために優先的に行うべき取組へのアドバイスや、モニターツアーに参加してのフィードバック、来年度以降の事業計画へのアドバイスなどを行いました。

アドバイスの例

● 外国人観光客の目的は宿泊目当てでなく、体験を目当てにやってくる。エコツアーリズム、サステナブルツーリズム、ワーケーションへの需要はコロナ禍を経て、ますます大きくなる。

● 野生動物の観察をメインにすると、観察できるかどうか大きな課題となるので、他のアクティビティと連携し「観察できればラッキー」としておくほうが現時点では無難。今後、平時からの情報収集、可能であれば

れば専門家や専門機関との連携を通じて、観察率をある程度の数字としても出せるようになる。良い。

● 各団体は、素晴らしい施設やスタッフで十分魅力的だが、地域としての知名度、魅力の発信ができていない。個々がばらばらで互いがどんなことをやっているか知らない。これを機に行政も含めた意見交換や議論をする場ができると良い。出た意見をできることから一つ一つ実現していくことが大事。

インバウンドに特化した研修会の開催

過去の参加地域に対しては、6月にインバウンドに特化した研修会を東京で開催、また2月には参加希望地でオンライン上でのWEBフォーアアップミーティングを実施しました。各地域に取組の進捗状況や成果をヒヤリングの上とりまとめ、あらかじめ参加者に共有、アドバイザーや他地域への相談など情報共有を通して、コミュニケーションの促進、モチベーションの向上、有用な情報の共有と

提供等を行うことができました。

Bコースにこれまで参加の各地域においては、エコツアーリズム推進協議会の設立、地域DMO主催のインバウンド向け旅行商品のプログラムコンテンツへの入選と商品化、研修参加者が中心となって地域での講習会開催、ガイド事業の設立と地域DMOと連携したツアー商品の販売などが具体的な成果となって各地で現れています。

今年度も8月ごろから募集を開始する予定となっており、皆様の地域からのご参加をお待ちしております。

奄美群島エコツアーガイド認定講習

本業務では、奄美群島エコツアーリズム推進協議会策定の「奄美群島エコツアーガイド認定制度」に基づく認定講習のガイド技術に関する部分を当会が担い、講習会を実施しました。

2020年度は新規の認定講習に加え、更新時期を迎える奄美群島認定エコツアーガイドに対する更新講習の一部(スキルアップ)を担いました。更新講習ではケーススタディミーティングと題し、課題や安全管理等をテーマとし改善点等を見出し、共有していく機会となるよう双方向型で実施しました。

「奄美群島エコツアーガイド認定制度」は、この夏に正式決定される予定の世界自然遺産への登録を見据え、エコツアーリズムの考えに基づいて奄美群島の魅力を伝えられるエコツアーガイドを育成すること、更にガイドの質の維持、向上を図ることを目的としています。

更新講習「ケーススタディミーティング」の概要

奄美群島広域事務組合により実施されている以下の2つのアンケート調査より、失敗事例(事故、クレーム等)や満足度に関する部分を抜粋し、事例として活用する。

- 「認定ガイドの意向把握調査」(2020年2月～3月にわたり認定ガイドを対象としたアンケート調査)
 - 「認定ガイドに対する利用者満足度調査」(2017年度から行われている、認定ガイドを利用した観光客に対するアンケート調査)
- 上記のアンケート結果の抜粋より、失敗経験、利用者とのトラブル・クレーム、事故対応等に関する情報を共有し、講師の実体験などをあわせて、トラブルへの対応力を高めるための講習を実施。

特にリスク管理と満足度向上のため以下のテーマ等での実施を想定。

■ リスクマネジメント

- ・ 利用者とのトラブル事例を題材に、どのように回避できたか、またその対応の仕方について、適切か、他に考えられる対応について協議する。
- ・ 事故対応事例について、どのように回避できたか、またその対応の仕方について、適切か、他に考えられる対応について協議する。
- ・ リスクの予見(危機予知トレーニング): 写真を示して、その中にあるリスクを予見し、その回避策等について話し合う。

■ 伝え方、楽しませ方、気配り等

- ・ 解説や接遇の観点から、利用者満足度調査結果を分析し、利用者が何に満足し、何を不満に感じているかを見出し、共有を図る。

■ ロールプレイング

- ・ 島ごとに挙げられた課題等をもとに、場面を想定したロールプレイングを行い、対応力を養う。



更新講習(ケーススタディミーティング)



更新講習(ロールプレイング)

ネットワークづくり（地域や企業などの連携を後押し）

東京観光財団受託事業

世界自然遺産を活用した観光振興に係る商談会・シンポジウム・現地交流会

JESは株式会社JTB東京交流創造事業部と連携し、東京観光財団の受託事業として日本の世界自然遺産地域への誘客に向けた世界自然遺産を活用した観光振興に係る商談会・シンポジウム・現地交流会を東京、大阪、屋久島で開催しました。

日本の世界自然遺産を有する自治体やガイド事業者、観光協会、旅行会社らが一同に集まる本事業は今年で2年目を迎えました。今年度は地域の事業者・団体と、旅行会社等のマッチングを行う商談会に加え、東京では世界自然遺産地域の情報を発信するシンポジウム（オンライン）の開催と、屋久島では世界自然遺産地域間の連携や旅行会社との交流を促す現地交流会（情報交換会・視察ツアー・座談会）を新たに実施しました。JESは各地域の事業者や団体との調整と屋久島での現地交流会の情報交換会及び座談会を担当しました。



情報交換会@屋久島

「屋久島」現地交流会（情報交換会、視察ツアー、座談会）の開催

屋久島の現地交流会では、世界自然遺産地域で活動している事業者や団体ほかの地域を視察する機会を通じて遺産地域同士の連携を促し、旅行会社と地域の事業者の交流を促進するために、現地ガイドが案内する視察ツアーと座談会を実施しました。

視察ツアーは雨天のため当初予定していた白谷雲水峡から紀元杉と屋久杉自然館の見学に急遽変更になりましたが、参加した旅行会社の担当者からは雨天時の代替案や比較的に単に自然体験が屋久島でできることがわかった、ハードルが高いと思っていた屋久島だが実際に現地に来てゆったりとした散歩コースがあることがわかったと今後の造成につなげていきたい、という声も聞きました。

座談会では屋久島野外活動総合センターの松本代表（JES理事）をファシリテーターに招き、旅行会社は「4地域の世界自然遺産の売り方」を、地域の事業者は「4地域が連携したプログラムづくり」をテーマに話し合い、最後に参加者全員で意見交換を行いました。参加者からは短い時間で結論を引き出すことは難しかった一方で、各社、各地域の特性、強み・弱み、課題などを聞くことができ参考になった、という声もありました。

今年度も、JTBと連携し本事業の受託が決まりました。旅行会社や世界自然遺産地域でエコツーリズムに取り組む事業者や団体らと協力し、世界自然遺産のブランドイメージを活用した各地への誘客促進を図る商談会・シンポジウム、現地交流会（白神山地・予定）の実施を予定しています。

「東京」シンポジウム・商談会の開催

東京の商談会に合わせてオンライン・シンポジウムを実施しました。視聴参加者は125名で、各地域の情報発信と企業のブランディングを手がけるエイトブランドニングデザイン（西澤明洋代表）による基調講演が行われました。

大阪、屋久島を含む3会場における商談会の旅行会社参加社数は計24社、商談件数は計112件でした。商談会に参加した旅行会社の担当者から、これまで世界自然遺産4地域についてあまり理解しないまま商品作成していたが、今後はより身近に感じて作成していきたい、という声がありました。



座談会 @ 屋久島



情報交換会 @ 屋久島

開催概要

商談会・シンポジウム	10月13日（東京）
商談会	11月4日（大阪）
現地交流会（商談会含む）	11月19日～21日（屋久島）



視察ツアー（参加者・YNAC市川聡氏提供）@ 屋久島

エコツーリズム推進全体構想認定協議会 ネットワーク会議

地域での取組を企業との連携で次のステップへ

エコツーリズム推進全体構想認定協議会ネットワーク会議は、エコツーリズム推進法に基づくエコツーリズム推進全体構想の認定を受けた全国18の地域が、情報共有や意見交換を行う場として設けられ、昨年に引き続きJESが企画運営を行いました。今回、初のオンライン開催となり、認定18地域うち15協議会が参加（過去最多）となりました。

今回は、テーマを「地域での取組を企業との連携で次のステップへ」とし、3つの企業の担当者を招き、各社の取組を紹介いただきながら、各地域と企業の連携促進を目的とした意見交換を行いました。

登壇者

- ふるさと納税関連：株式会社 ROOTs 代表取締役 シュレスタ 翔太氏
（体験型特化返礼品サービス「さといこ」運営会社 博報堂 DY ホールディングスグループ）
- 旅行会社関連：ベルトラ株式会社 取締役 万年 良子氏
- アウトドア関連：株式会社モンベル 常務取締役・広報本部長 竹山 史朗氏
- ファシリテーター：
公益財団法人日本交通公社理事・観光地域研究部長 寺崎 竜雄氏

各社の取組としては、ふるさと納税と体験型返礼品を利用するターゲット層やマーケティング、企業版ふるさと納税の戦略や、アクティビティ販売サイトへの掲載のスキームや事例、アウトドアイベントの開催や自治体との包括協定締結による取組事例などが紹介されました。

意見交換会の中で、企業側からは、「エコツーリズムは地域によるまちづくりの取組の一つであるため、連携にはそれぞれの地域がどのような街づくりをしたいのかという方針を決めて、それに向けて継続的に取り組んでいただくことが重要」といった意見や、「市場や世の中においては、SDGsやコロナ禍により、環境に対する意識が高まっており、3密回避、自然、アウトドア、社会貢献などの観点により、各地域と協力していきたい」などの要望が出されました。地域側からは「具体的にどのような連携が可能なのかがよく分かった」「自らの地域に当てはめて連携のイメージがついた」などの声が聞かれました。

環境づくり (実践者サポート)

第16回エコツアーリズム大賞

エコツアーリズム大賞は昨年度で16回目を迎え、今回は15件の応募があり、新規応募は8件と約半数を占めました。受賞は大賞1件、優秀賞2件、特別賞4件の計7件の受賞がありました。コロナウィルスの感染拡大により応募件数が例年に比べて少なくなりましたが、それぞれ個性際立つ優れた取り組みが選出され、宿坊やOTA（オンライン・トラベル・エージェント）など、新しい事業形態の主体の受賞があり、エコツアーリズムの広がりを感じられる回となりました。

表彰式は3月に開催し、環境副大臣より賞状が授与されました。今回は初めての試みとして表彰式をオンラインでも配信し、多くの観覧をいただきました。

今回の応募は9月の中旬ごろから予定しております。皆様のご応募をお待ち申し上げます。



大賞受賞者



受賞者集合写真

受賞団体と評価のポイント

賞	受賞団体	評価のポイント
大賞	高山市乗鞍山麓五色ヶ原の森／五色ヶ原の森案内人の会	市の条例に基づく入山規制エリアでガイドを提供する活動、モニタリングや道の維持管理、コロナに対応したショートコース開発など
優秀賞	株式会社五千尺 NATUREGUIDE FIVESENSE	感染症対策としてプライベートコースの開発や情報発信に取り組み、来訪者数を伸ばしていること
	特定非営利活動法人 自然体験学校	沖縄本島南部で体験旅行を毎年多数受け入れ、地場産業と連携したプログラムの実施を通して地域の人材育成に取り組み、地域経済への還元も果たしていること
特別賞	下呂市エコツアーリズム推進協議会	E-DMOの活動に加え、市民総参加の宝探しとその集大成としての全国エコツアーリズム大会の開催
	認定特定非営利活動法人 信州まつもと山岳ガイド協会 やまたみ	山岳ガイドの活動とともに地域の子どもたちを対象に山の楽しさや安全を伝えたり、登山道管理やモニタリングを行うなど山に関わる総合的な活動
	二尊院 宿坊えんとき(有限会社天請)	修験をエコツアーリズムと捉えて信仰と文化を組み合わせた体験を提供し、地域活性化に取り組んできたこと
	ベルトラ株式会社	2020年にエコツアー事業部を立ち上げてエコツアーに特化した商品流通に積極的に取り組んでいること

JESではジェイアイ傷害火災保険株式会社の保険代理店として、エコツアー向けの保険（普通傷害保険、国内旅行保険、賠償責任保険）を会員対象に扱っています。

保険代理店業務は2009年から開始し、2020年度は140団体、279件の契約を扱っています。年間包括契約であること、個人での契約や小規模からの契約が可能なため好評をいただいています。

下のグラフは契約団体数と事故件数の推移です。契約団体数は順調に伸びており、それに伴って事故件数も増える傾向が見られます。事故を起こさないための日頃のリスクマネジメントは必須ですが、事故が起きてしまった時の危機管理対策として、エコツアー向け保険をご活用いただければ幸いです。

エコツアー向け保険契約団体数および事故件数の推移



機運づくり

講師・有識者派遣・紹介

JESではエコツアーリズムに取り組みたいと考えている地域や団体からの相談や依頼を受け、講師を派遣・紹介しています。

日本各地で活躍するエコツアーガイドや観光事業者、研究者、観光や地域づくりのコンサルタントなど様々な専門家とのネットワークを活かし、地域の特性や観光への取組具合等を踏まえ、要望に応じて、適した専門家を派遣・紹介します。ここでは2020年度に実施した有識者派遣を紹介いたします。

有識者派遣実績

派遣先	日にち	講師
国立・国定公園への誘客の推進事業および国立・国定公園、温泉地でのワーケーション推進事業審査委員会	7月15日	田島幸郎 (JES 事務局長・理事)
下呂市エコツアーリズム推進協議会	10月26日 3月18日	田島幸郎 (JES 事務局長・理事)
環境省地域循環プラットフォーム「鳴門市コウノトリ観察ツアー」についての専門家派遣	11月5日 12月12日	横山昌太郎氏 (森林インストラクター、博士 (農学))
JICA「熱帯・亜熱帯におけるエコツアーリズム企画・運営 (A) (B)」研修 (オンライン開催)	1月15日 2月12日	小林寛子 (JES 理事、東海大学教授) 赤間亜希 (JES 事務局)
栃木県・環境省日光国立公園管理事務所自然ガイド等外国人対応力向上研修会 (オンライン開催)	3月9日	河合章雄氏 (富士の国やまなし通訳案内士会 理事) 湯山智美氏 (富士の国やまなし通訳案内士会 通訳案内士 / ネイチャーガイド)
岐阜県中部山岳国立公園活性化推進協議会乗鞍岳エコツアーリズム検討部会	3月12日	田島幸郎 (JES 事務局長・理事)

「人づくり」事業・その他の実績

発注者	事業内容	開催日
青森県 自然保護課	自然公園エコツアーガイド等スキルアップ研修会 (過去2年にわたり基礎編の講習会を開催。)	10月15日、19日 11月2日
山口県 自然保護課	エコツアーリズムプログラムづくり支援事業 (全4回) (2019年度に引き続いて実施。松本毅氏をアドバイザーとして県内の3団体に4回派遣。)	12月4～5日、19日 2月16日、18日
自主事業 オンラインセミナー	エコツアーリズム推進認定地域オンライン情報交換会 参加者数：226名 ゲスト：13地域のエコツアーリズム推進協議会	6月5日
	コミュニティデザイナー山崎亮氏に聞く！ 参加者数：75名 ゲスト：山崎 亮氏 (studio-L 代表取締役)	7月29日
	岐阜県下呂温泉のE-DMOによる戦略 参加者数：63名 ゲスト：瀧 康洋氏 (下呂市エコツアーリズム推進協議会会長)	9月2日
	With コロナの観光を考える～日本の縮図・沖縄の離島から～ 参加者数：55名 ゲスト：開梨 香 (株式会社カルティバ代表取締役)	11月12日
自主事業 学生部会 オンライン配信	第12回全国エコツアーリズム学生シンポジウム開催 基調講演：松田光輝氏 (知床ネイチャーオフィス代表) 山田桂一郎氏 (JTIC.SWISS 代表) 参加者数：105名、発表エントリー数：14件	12月13日

「ネットワークづくり」事業・その他の実績

発注者	事業内容
「全国エコツアーリズム大会 in 下呂市」開催事業 地域住民、観光関係者、エコツアーリズム実践者等を対象に開催。 1日目シンポジウム 280名、交流会 80名 2日目エコツアー 80名、歌舞伎鑑賞と振り返り 70名 地域住民への宝の発信を狙いとし、ステージ上、会場ロビー等で宝の発表を行った。	11月15～16日

「環境づくり」事業・その他の実績

事業内容	登録数
グッドエコツアー (エコツアー推奨制度) エコツアーリズムの考え方に基づく一定の基準をクリアしたツアー商品を推奨する仕組み。	23件



シラビソコース雄池から望む乗鞍岳

乗鞍山麓 五色ヶ原の森

山郷三昭
岐阜県高山市環境政策部環境政策推進課
環境政策係長

乗鞍岳の麓、溶岩台地が織りなす
大自然と森の歴史を巡る
ガイドツアー



ツアーの様子（木道を歩く）

エコツーリズム
サイト

第16回
エコツーリズム
大賞
大賞受賞

GIFU.PRE
TAKAYAMA CITY

慮を徹底しています。
また、人間が利用することによる植生などへの影響の有無や認定ガイドの質、歩道、小屋等の施設の利用状況などを検証するため、「乗鞍山麓五色ヶ原の森自然保護審議会」を設置し、有識者や関係行政機関などによる継続的な調査、審議を行っています。
一方、お客様の休憩時に利用いただく山小屋のトイレには、常に清潔を美しくという考えのもと、温水洗浄機付きの洋式便座を備えるなど、お客様に驚きと喜びを感じていただけるようこだわりを持って維持管理に取り組んでいます。

お客様の受け入れ体制
自然環境及び風景地の保護と適正な利用を図るため、国内では初めてとされる、入山時に森の案内人（認定ガイド）の同伴が条件となる制度を設けています。
森の案内人の役割は、お客様の案内業務はもとより、五色ヶ原の森の自然環境の保全や植生破壊の防止、歩道や山小屋等の維持管理、地元小中学生への環境教育など多岐にわたります。お客さまをご案内する際は、森の植生や動植物などの自然環境に関する説明に加え、森の成り立ちや人とのつながりの歴史、地元の文化等を織り交ぜたガイドを行っています。また、お客様の健康状態や疲労の度合いを見極めた無理のないペース配分や緊急時の応急処置など、初心者の方でも安心してお楽しみいただけるよう配慮しています。五色ヶ原の森の豊かな自然や魅力溢れる地域と来訪者をつなぐ森の通訳人として活躍しています。

乗鞍山麓五色ヶ原の森とともに
現在、五色ヶ原の森を含む中部山岳国立公園南部エリアでは、豊かな自然環境、自然



シラビソコース横手滝つり橋で記念撮影

この森は、自然度の高い貴重な植生と豊かな生態系が保たれているほか、乗鞍火山の痕跡を色濃く残す溶岩台地と、雪解け水や豊富な降水により生み出された数多くの池や滝、溪流などが美しい景観を形づくっています。
高山市は、豊かな自然環境の保護と利用の両立を図るため、歩道や山小屋等の施設整備時における自然への配慮はもとより、入山時におけるガイドの同伴、一日当たりの最大利用人数の制限、利用料金制などを条例で義務づけるなど、特徴的な利用制度を設けています。
この森はオーバークースによる自然環境破壊の防止や豊かな森と人をつなぐ環境教育機能も兼ねる、先駆的なサステイナブルツーリズムサイトなのです。

3つの特徴的なコース
五色ヶ原の森は、乗鞍岳西側中腹の起伏に富んだ斜面を横断しながら、多くの滝や柱状節理の岩壁、広葉樹主体の多様な森を巡るカモシカコース（6.7km）、緩やかな斜面に展開する幻想的な池や湿原、亜高山帯針葉樹林と夏緑広葉樹林の色分けがはっきりとした

五色ヶ原の森は、自然の「奥深さ」、「壮大さ」、「繊細さ」を私たちに伝え、「学び」を与えてくれるかけがえのない場所です。今後、この森の豊かな自然に敬意を払いながら、時として歩みを止め、謙虚に自然と向き合う姿勢を持ち続けてまいりたいと考えております。

景観を活かした地域活性化に関する取組が加速しています。コロナ禍において、豊かな自然とふれあうエコツーリズムに対するニーズが急速に高まりつつある中で、予約制や少人数、ガイド同伴といった独自の制度を有する五色ヶ原の森への注目度も飛躍的に高まっています。

五色ヶ原の森は、自然の「奥深さ」、「壮大さ」、「繊細さ」を私たちに伝え、「学び」を与えてくれるかけがえのない場所です。今後、この森の豊かな自然に敬意を払いながら、時として歩みを止め、謙虚に自然と向き合う姿勢を持ち続けてまいりたいと考えております。



山小屋内のトイレ



ゴスワラコース原生林の巨木

バラエティに富んだ自然を巡るシラビソコース（7.3km）、乗鞍岳火山により形成された苔むした大きな溶岩塊の丘や飛騨の奥座敷ともいえる国内有数の貴重な原生林、川床の色が異なる白川や黒川の渓流など、特徴的な大地と貴重な原生林を巡るゴスワラコース（6.4km）の3つのコースをお楽しみいただけます。
いずれのコースも、森の案内人によるガイドのもと、休憩を含め1日かけてゆっくり散策いただけますが、各コースを部分的に巡るシヨートコースも開設するなど、お客様の日程や体力に応じた楽しみ方を提供しています。

サステイナブル（持続可能）な利用への取り組み
私たちは五色ヶ原の森開設前の植生調査や施設整備、運営方式についてご助言いただいた横浜国立大学の宮脇昭名誉教授の教えである「元手を食いつぶさず」に利息で食いつぶさず」を基本コンセプトに、①本物にこだわる、②整備は最小限に留める、③可能な限り現地にあります。歩道整備の際は擬木やコンクリートなどを使用せず現地の倒木や石、人力により行うほか、エリア内の山小屋で使用する電力は渓流を活用したマイク口水力発電により供給、山小屋のトイレで発生する汚水は、バイオマス浄化槽により外部に排出しないなど、自然環境への負荷を最小限に留める配



カモシカコース久手御越滝で記念撮影

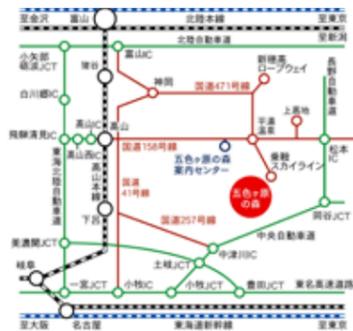
Ta/Ka/Ra/Mo/no

新コース、「ゴスワラコース」をオープン

2019年6月に、国内有数の自然植生や乗鞍登山の歴史を中心とした学術的、歴史的特徴を有する新コース、「ゴスワラコース」をオープンしました。森の案内人とゆっくりと森の奥深くへ足を踏み入れることで、飛騨の奥座敷ともいえる貴重な原生植生、乗鞍登山と山岳信仰の歴史、人々と森のつながりなどに触れていただくことができます。

アクセス

集合場所となる五色ヶ原の森案内センターへのアクセスは、電車でお越しの場合、JR高山線高山駅で濃飛バスに乗り換え約40分、「五色ヶ原の森入山口」バス下車。お車でお越しの場合、中部縦貫自動車道高山ICから約50分、長野自動車道松本ICから約1時間15分となります。



連絡先

五色ヶ原の森案内センター
岐阜県高山市丹生川町久手 471 番地 3
電話：0577-79-2280
メールアドレス：info@goshikinomori.com
WEB ページ：https://goshikinomori.com

鳥取県 日南町

にちなんエコツーリズム推進協議会を設立

牧 恭平 (日南町企画課)

中国地方のほぼ中心に位置する鳥取県日南町は、面積の約9割が森林で一級河川日野川が流れる自然豊かな町です。この自然の中には、オオサンショウウオやヒメボタル、野生のサクラソウなど希少な動植物の生息地が多く存在しています。しかし、これらの場所は地域や保護団体、研究者により守



られてきましたが、法的な保護なく危険な状況にあり、生息域が狭まってきている状況でした。そこで日南町では、これら町の貴重な財産を守るため、保護団体や町観光協会とタッグを組み、平成31年3月に「にちなんエコツーリズム推進協議会」を設立し活動をおこなってきました。

協議会では、科学的知見に基づいた利害関係者の調整とルール作りと生物保護により生じる経済的損害の補填と利益を生むしくみを作ることを役割として活動しています。そのために、これまでオオサンショウウオやヒメボタルの生息などに関する基礎調査や、日南町の動植物だけでなく習俗・習慣・伝統文化などの宝の掘り起こし、エコツアー



プログラムの開発と実施、環境保護意識の啓発や担い手育成をおこなってきました。

今年度は、これまで蓄積したものを元に全体構想を取りまとめ、持続可能なルール作りと、しくみ作りを行い、エコツーリズム推進法認定団体への登録を目指すと共に、日南町の宝を次世代に引き継ぐべく活動を進めていきます。

群馬県 みなかみ町

「谷川岳インフォメーションセンター」オープン

鈴木 香理
(谷川岳エコツーリズム推進協議会事務局・みなかみ町観光工商課)



谷川岳インフォメーションセンターは、歴史や文化を学び、周辺の自然環境の楽しさを知ってもらうほか、最新の情報を提供する施設としてオープンしました。

そして、エコツーリズムの拠点施設として谷川岳エコツーリズム推進協議会が管理運営をしています。

建物内は、ホール、展示室、多目的室があり、ホールでは植物の開花等の最新情報を入力したり、大きなベンチに座って休憩したりすることができます。また、冬には薪ストーブを囲んで休憩できます。

展示室は、谷川岳の植物や地質、動物を解説している常設のパネル展示があります。この展示パネルをインタープリターが解説することによって、周辺の動植物の理解を深めるほか、フィールド歩きをより楽しめるようにしています。

また、谷川岳の四季や登山コースを案内する映像を見たり、ラフティングやイヌワシ目線映像のVR体験をしたりできます。

多目的室は、小・中学生の環境教育の場のほか県内外の小・中学生の野外学習の場として利用する予定です。

谷川岳周辺を安全に楽しく過ごすためにぜひお立ち寄りください。

岡山県 鏡野町

健康の町かがみの

エコツーリズム推進協議会の設立と取組

小谷 英 (健康の町かがみのエコツーリズム推進協議会・鏡野町産業観光課)



中国山地の美しい水に抱かれた岡山県鏡野町は、全国的にも珍しい健康づくり条例を制定している、豊かな森林資源に恵まれた町です。国指定の名勝地「奥津湊」や、裏見の滝として知られる「岩井滝」など、滝や渓谷、湖が点在し、南部には里山の田園風景が広がっています。2019年秋に全線開通した「高清水トレイル」は、トレッキングを通じた健康づくりの拠点として注目されており、美作三湯の一つ「奥津温泉」や、「姫とうがらし」を始めとした特徴ある農林水産物、たたら文化が感じられる「木地師の館」や、国指定重要文化財「旧森江家住宅」など、貴重な自然や文化が息づいています。

こうした中で、人口の減少や観光ニーズの多様化に加え、近年の気候変動や感染症等によるリスクの増大など観光産業は大きな転換期を迎えており、課題解決

に向けた一体的な取り組みとして、地域の伝統文化と豊かな自然を生かしたまちづくり・地域活性化を目的として、地域の自治組織や事業者等によって構成される「健康の町かがみのエコツーリズム推進協議会」を設立しました。

活動内容としては、高清水トレイルを中心とした資源調査の実施や活用方法などのルール作りの他、案内人の育成や受入環境の整備、モニターツアー等を通して効果検証を行います。また、アフターコロナを見据えたPRイベントやプロモーションも徐々に再開しながら、ファンクラブ制度の活用等による情報発信を強化し、ファン創出に向けた取り組みを戦略的に進め、令和4年度にはエコツーリズム推進法に基づく「エコツーリズム推進全体構想」の作成・認定を目指しています。



各地より エコツーリズムサイト 便り

各地域からエコツーリズム推進に関する取組をご紹介いただくコーナーです。続々と新しい取組が始まっています。

奄美群島

奄美大島三太郎峠周辺の夜間利用ルールづくり

山根 篤大 (環境省沖縄奄美自然環境事務所 奄美群島国立公園管理事務所 国立公園保護管理企画官)

今年5月にIUCNから世界自然遺産への登録の勧告を受けた奄美大島では、世界自然遺産推薦区域及び緩衝地帯に含まれる市道三太郎峠周辺においてナイトツアー等による夜間の車両通行が増加しており、アマミノクロウサギ等の野生動物の生息地のかく乱や交通事故、密猟、ナイトツアーにおける利用体験の質の低下や利用者同士のトラブルなどといった問題が生じています。これについては、前回(平成30年5月)のIUCN勧告においても、増加しつつある観光利用の脅威の影響を最小限に抑えるための実効性のある観光管理が必要との指摘がなされています。

そこで、関係する行政機関、地元町内会、エコツアーガイド、民間企業、NPOなどで「奄美大島三太郎峠周辺における夜間利用適正化連絡会議」を設置し、夜間利用ルールの設定に向けた検討を進めています。

令和3年のゴールデンウィークには、令和2年秋に実施した第1回実証実験の結果を踏まえ、第2回実証実験を実施し、事前予約制により通行可能台数を30分毎に各方向1台に制限する、世界自然遺産推薦区域に含

まれる道路(市道スタル保線、市道三太郎線から分岐している)を通行止めとする、走行速度を時速10km以下に制限する、野生動物への配慮の仕方や他の利用者とのコミュニケーション方法を明確化するなど、試験的に設定した利用ルールを運用してみました。ただし、これらの利用規制には法的強制力はないため、利用者に協力を依頼する形で実施しています。詳細な結果は分析中であるものの、実験期間中の利用の1/3が未予約利用であったことや通行止め区間にも立ち入った車両があったことなど、複数の課題が見つっています。計2回の実証実験の結果を踏まえてどのような利用ルールを設定し、それをどのように運用していけば良いのか、更なる検討が必要です。

人の生活圏と希少な野生動物の生息地が密接している奄美大島ならではの難しい課題ですが、世界自然遺産の価値がある地元の自然をどうすれば未来の子供たちに伝えていけるのか、頭をひねり行動することが今を生きる私たちの役目だと感じています。



実証実験告知看板(赤・青)とロードキル注意喚起看板(黄)



ナイトツアーで生き物を観察する利用者

大阪府

大阪湾の魅力と環境保全について知るエコツーリズム

川村 優佳 (大阪府環境農林水産部環境管理室環境保全課主事)

大阪府では、府民のみならず、楽しみながら大阪湾の魅力を感じていただき、プラスチックごみ対策など大阪湾の環境保全の取組みへの理解を深めていただくことを目的として、エコツーリズムを推進しています。今回は、「『豊かな大阪湾』エコバスツアー」、「大阪湾うみ・まちウォーク」、「大阪湾魅力ウォーク with アスマイル」について紹介します。

「『豊かな大阪湾』エコバスツアー」は、大阪湾の魅力を感じながら環境学習ができるツアーとして令和元年度に開催しました。府内に残る数少ない自然海岸(岬町)での水質調査や人工干潟(岸和田市)での生き物観察、大阪湾の写真的撮影会等を組み合わせたバスツアーを行い、大好評を頂きました。

「大阪湾うみ・まちウォーク」は、大阪湾沿いに路線を有する南海電気鉄道株式会社と協働して、うみとまちのつながりが感じられる景観や漁港のある風景などを巡るウォー

キングイベントとして平成29年度から開催しています。これまでに、阪南市やりんくうエリア(泉佐野市、田尻町)、堺ベイエリアなどで開催し、ルート上に美化活動の実施を組み込む等、環境の保全について考えていただけるよう工夫しています。

「大阪湾魅力ウォーク with アスマイル」は、より多くの人に参加いただけるよう、府民の健康をサポートするアプリ「アスマイル」と連携したウォーキングイベントとして開催しています。今年の春には、渡船や海の景観を楽しみな

がら天保山周辺のベイエリア(大阪市)を巡るコースで開催し、多くの方にご参加頂きました。

皆様も、ぜひ大阪湾の多様な魅力に触れてください。



エコバスツアー

01 メキシコ、マヤ刺繍プロジェクト

相原朋子 (HIS メキシコ・マヤプロジェクト推進部)

メキシコ、ユカタン半島では先住民のマヤ民族が先祖代々の伝統を継ぎ暮らしています。絶頂期には南北米大陸で最も豊かな文化を誇っていた古代マヤ文明ですが、その子孫は現在メキシコ国内で多くの社会的格差に直面し、街から遠く離れたジャングルに集落を作りひっそりと暮らしている人々が多くいます。

新型コロナウイルスの影響により、観光収入が途絶え、厳しい生活を余儀なくされている彼らの状況を目の当たりにし、HIS メキシコ法人は2020年6月に彼らに支援する活動

を始めました。

『マヤ刺繍プロジェクト』と名付けられたこのプロジェクトはクラウドファンディングで資金を募り、観光だけでなくインターネットを用いた販売経路を作り上げることで、マヤ伝統の刺繍を守り、女性たちの経済的自立を支援することを目的としています。現地 NPO【マヤ女性の尊厳を守る会】との協働プロジェクトで、同会の代表のラウラ氏は2002年よりマヤ村の生活支援を行い、特に社会的地位の低いマヤ女性の支援を行って来ました。



このプロジェクトの主な活動は、仕事がない女性を対象に、月に3回ほどの刺繍レッスンを開講し(2020年7月実施)、そこからオリジナルのデザインを考案し商品化することで、マヤ村オリジナルブランド「Coco Maya」も立ち上げています。現在、マヤ村で作られた商品は「MAYA

MEXICO」という HIS メキシコの物販サイトで販売しています。

今後の取り組みとして衛生的な工房の設立や、アーティストとのコラボレーションなども考えているところで、マヤ村の商品を日本や世界に向けて積極的に発信していく予定です。



Maya Mexico のサイト

https://mexico-maya.com/?v=24d22e03afb2&fbclid=IwAR1IGeFSASFUd_K7



02 マリオット・インターナショナルが提供する「Good Travel with Marriott Bonvoy」

原田あんり (ザ・リッツ・カールトン沖縄 セールス&マーケティング マーケティングコミュニケーションズマネージャー)

「マリオット・インターナショナル」はアジア太平洋地域の15軒のホテルにて、コロナ禍の先を見据えた新時代の観光を考案し、体験型プログラム「Good Travel with Marriott Bonvoy」を開始しました。このプログラムでは、環境保全、地域コミュニティの活性化、海洋保護の3種のテーマを基に、「ここでしか体験できない特別」な高付加価値ある宿泊体験が楽しめます。

日本国内では「ザ・リッツ・カールトン沖縄」にて、「サンゴの苗作り体験」を楽しむことができます。同アクティビティでは、経験豊富な海洋インストラクターによる、沖縄の豊かな海の生態系を作り出すために大切な役割を果たしているサンゴの働きについてのレクチャーに参加する他、沖縄近海のサンゴ礁が現在直面している危機について共に考え、サンゴ礁の保護および回復のために必要なアクティビティを実際に体験していただきます。またオプションでは実際にラグーンにてサンゴの苗を植える体験もあります。



サンゴの苗作り体験



サンゴ畑 (沖縄ダイビングサービスLagoon)



ザ・リッツ・カールトン沖縄



下呂温泉におけるエコツアーの効果に関する調査 ～温泉利用+エコツアー体験が心身に対してより改善効果をもたらす～

エコツーリズムの
現場から

89

西村公一
(株式会社未来政策研究所 主任研究員)

「小坂の滝巡り」ツアー (小坂地区)



「竹原ふるさと散策」ツアー (下呂地区)

岐阜県にある下呂温泉は千年以上の歴史を持つ日本三名泉の一つであり、古くから湯治の場として利用され、その後観光地として発展してきた日本を代表する温泉地の一つである。

下呂温泉が位置する下呂市は、持続可能な観光まちづくりを目指す中、「下呂市エコツーリズム推進全体構想」を策定し、同構想は2018年4月、環境大臣をはじめとする関係大臣によって認定された。

この構想の下、下呂市では、地域資源の保護・活用、観光振興、地域振興の同時達成を目指して、エコツアー(自然、歴史、文化、食、地域住民との交流等の体験)をはじめとする様々な取組を行なっている。

今後、下呂市の代表的な資源である温泉を軸とした観光まちづくりの発展に向けては、エコツアーの果たす役割・効果が重要な点となる。

このような問題意識に基づき、下呂市で温泉施設を運営する株式会社水明館は、エコツアー利用者にどのような効果をもたらすのかを明らかにする

「調査結果の要点」

- 温泉を利用することで、心身に對する改善効果があったという人の割合が非常に高く(大半の項目で8割前後)、温泉の効果認められたこと
- 温泉を利用する人の中でも、エコツアーに参加した人は、参加していない人比べて心身に對する改善効果が更に高まっていること
- エコツアー参加者の9割以上が、地域(下呂温泉)の自然、歴史、文化に對する理解が向上したと認識していること

「今後のエコツアーへの参加意向は、参加体験のある人で8割以上高いこと。ツアーへの感想をみると満足感や充足感を得ている声が多く、参加者のリピート意向が高いこと」

これらの調査結果の中でも最も重要な成果と考えられるのは、「温泉だけを利用する滞在者よりも、温泉に加えてエコツアーを体験する人の方が、より心身に對して改善効果が見られた」という点である。

本調査結果は、持続可能な観光まちづくりやエコツーリズムの理念に基づく取組を進めている温泉地において活用できるものと考えられる。また、他の温泉地が同様の取組を始め際の参考情報ともなるだろう。

西村公一 (株式会社未来政策研究所 主任研究員)
2004年より株式会社未来政策研究所にて、観光分野、まちづくり分野、エネルギー分野等の調査・研究業務に携わる。国際政治経済学修士(英国ウォリック大学)、観光学博士(北海道大学)、文教大学非常勤講師。

〈調査概要〉

- 調査地域: 岐阜県下呂市 (下呂温泉)
- 調査対象:
 - ①下呂温泉「水明館」の滞在客
 - ②下呂市で実施しているエコツアーの参加者
- 調査手法: アンケート調査票の配布・回収
- 回収サンプル数:
 - ①施設滞在者: 303 サンプル
 - ②ツアー参加者: 218 サンプル (合計: 521 サンプル)
- 調査期間: 2020年9月～2021年1月
- 調査統括: 株式会社 水明館
- 調査実施: 一般社団法人 下呂温泉観光協会
- 分析: 株式会社 未来政策研究所
- 監修: 真板昭夫 (北海道大学客員教授) 海津ゆりえ (文教大学教授)
- 協力: 一般財団法人日本健康開発財団

「馬瀬里山ガイドウォーキング」ツアー (馬瀬地区)